

各 関 係 機 関 御 中

石川県農林総合研究センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察情報について

令和7年度病害虫発生予報第7号を下記のとおり送付します。

連絡先	石川県農林総合研究センター 中央普及支援センター 病害虫防除室 電 話 076-257-6972 (直通) F A X 076-257-9140 E-mail kisk0301@pref.ishikawa.lg.jp
-----	--

病害虫発生予報第7号 (予報期間：10月上旬～10月下旬)

予報内容

果 樹

カキ炭疽病の発生は**多**と予想される。降雨前後の薬剤防除および罹病した果実の処分を徹底する。

野菜・花き

軟腐病の発生は**多**と予想される。傷口や害虫の食害痕から病原菌が侵入するので、害虫防除や強い風雨後の防除を徹底する。

ブロッコリー黒すす病の発生は**やや多**と予想される。定植後30日頃と発らい初期の防除を徹底する。空気感染し強風後に感染拡大しやすいため、前後の防除を徹底する。

トマトキバガの発生は**多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。栽培終了後は、速やかに施設内の植物を枯死させ、搬出および埋却を行う。

ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガの発生は**多**と予想される。若齢幼虫の防除を徹底する。

※ 病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。 また、周辺作物への飛散防止を徹底する。

—気 象 予 報—

1 か月予報 （令和7年9月25日付け 新潟地方気象台）

予報期間 9月27日～10月26日

[確率予報]

気 温	低い	10%、	平年並	10%、	高い	80%
降 水 量	少ない	40%、	平年並	30%、	多い	30%
日照時間	少ない	30%、	平年並	30%、	多い	40%

[概要]

6月中旬以降、暖かい空気に覆われ、気温のかなり高い状態が続いています。向こう1か月も、暖かい空気に覆われやすいため、気温の高い状態が続くでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

- ・ 9月27日（土）～10月3日（金）
天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 10月4日（土）～10月10日（金）
天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 10月11日（土）～10月24日（金）
天気は数日の周期で変わるでしょう。

注 1) 発生量は平年比

2) (+) は病害虫の発生に好適な要因、(－) は不適要因、
(±) は好適・不適に関与しない要因を示す。

1 麦類の病害虫

オオムギ雲形病

発生時期	越冬後
発生量	並
予報の根拠	(1) 前作の発生は並 (±)
防除上の注意事項	(1) 種子の消毒を実施する。

オオムギ黒穂病類

発生時期	出穂後
発生量	並
予報の根拠	(1) 前作の発生は並 (±)
防除上の注意事項	(1) 種子の消毒を実施する。

2 果樹の病害虫

カキ炭疽病

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の薬剤防除および罹病した果実の処分を徹底する。

3 野菜・花きの病害虫

軟腐病（ネギ、ブロッコリー等）

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 傷口や害虫の食害痕から病原菌が侵入するので、害虫防除や強い風雨後の防除を徹底する。

ブロッコリー黒すす病

発生時期	収穫期
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 定植後 30 日頃と発らい初期の防除を徹底する。 (2) 空気感染し強風後に感染拡大しやすいため、前後の防除を徹底する。

トマト灰色かび病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1)現在の発生は並（±） (2)気温は高い（－） (3)降水量はほぼ平年並（±）
防除上の注意事項	(1)耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

トマトすすかび病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1)現在の発生はやや少（－） (2)気温は高い（＋） (3)降水量はほぼ平年並（±）
防除上の注意事項	(1)耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

トマトキバガ

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1)現在の発生は多（＋） (2)気温は高い（＋）
防除上の注意事項	(1)発生初期の防除を徹底する。 (2)抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。 (3)栽培終了後は、速やかに施設内の植物を枯死させ、搬出および埋却を行う。

ネギハモグリバエ

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1)現在の発生は少（－） (2)気温は高い（＋）
防除上の注意事項	(1)発生初期の防除を徹底する。 (2)抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

ハスモンヨトウ

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1)現在の発生は並（±） (2)フェロモントラップ誘殺数は多（＋） (3)気温は高い（＋）
防除上の注意事項	(1)若齢幼虫の防除を徹底する。

シロイチモジヨトウ

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1)現在の発生は並（±） (2)フェロモントラップ誘殺数は多（＋）

防除上の注意事項 (3) 気温は高い (+)
(1) 若齢幼虫の防除を徹底する。

オオタバコガ

発生時期 連続発生
発生量 多
予報の根拠 (1) 現在の発生は多 (+)
(2) フェロモントラップ誘殺数は多 (+)
(3) 気温は高い (+)
防除上の注意事項 (1) 若齢幼虫の防除を徹底する。

コナガ (アブラナ科 : ダイコン、ブロッコリー等)

発生時期 連続発生
発生量 少
予報の根拠 (1) 現在の発生は少 (-)
(2) フェロモントラップ誘殺数は少 (-)
防除上の注意事項 (1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。